凧山（たこやま）C 窯跡

所 在 地　瀬戸市凧山町地内

調査理由　東海環状自動車道建設

調査期間　平成 14 年 4 月～7 月

調査面積　700 ㎡

担 当 者　藤岡幹根・宇佐見守・永井宏幸

調査地点（1/2.5 万「猿投山」）

調査の経過　調査は東海環状自動車道建設の事前調査として、国土交通省愛知国道工事事務所より愛知県教育委員会を通じた委託事業として実施した。本窯跡は、平成 13 年 11 月に実施された瀬戸市教育委員会の分布調査により新たに確認され、同年 12 月に実施した範囲確認調査の結果、灰原と窯体の一部が判明した。これを受けて調査面積 700 ㎡を対象とし実施した。

立地と環境　凧山 C 窯跡は瀬戸市の東南部、矢田川の支流である赤津川流域に広がる赤津盆地を囲む丘陵上、凧山町地内に所在する、赤津地区としては窯業生産の最古段階の窯である。窯体は丘陵の南東斜面、標高約 220 mに 2 基、窯直下から斜面末端まで灰原が濃密に広がっている。周辺の遺跡には、鎌倉時代の凧山窯跡と江戸時代の瓶子窯跡、凧山 A 窯跡など窯業遺跡と古代から近世の凧山屋敷遺跡、縄文時代から中世の惣作鐘場遺跡などの集落遺跡がある。

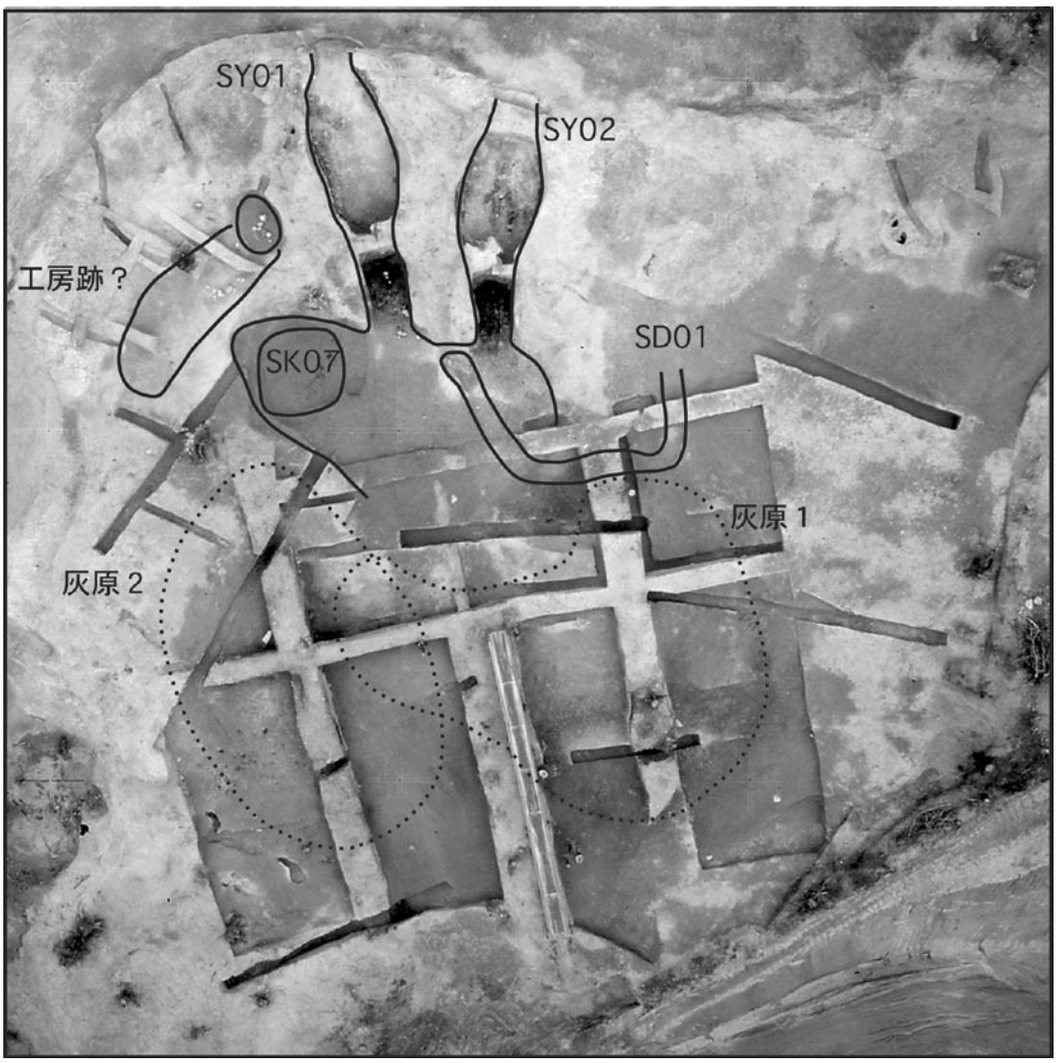
調査の概要　今回の調査では、13 世紀半ば頃（尾張型山茶椀第 7 型式）の窯体 2 基、工房跡・灰原といった灰釉系陶器（山茶椀）生産に関わる遺構群を、良好な状態で確認することができた。また、縄文時代早期と奈良時代の土坑も確認され、注目できる。

遺　　構　**窯体**：南北に隣接して 2 基（北：SY01 、南：SY02）が確認された。2 基とも焚口から焼成室まで確認でき、煙道部は削平され残存していなかった。窯体の規模は全長 7 m（推定）、最大幅約 2 mを測る。2 基の窯はその新旧関係から、SY02 → SY01 の順で構築されている。窯体手前の前庭部には排水路（SD01）が見つかっている。この排水路から灰と釉着した椀や椀を重ねて廃棄された遺物が多数出土した。

工房跡：SY01 の北西側にテラス状に掘り込まれた長方形の平坦地。ロクロピットなど作業施設に関わる遺構は確認できなかったが、窯に隣接して平坦面を築いていることから工房跡を推定した。

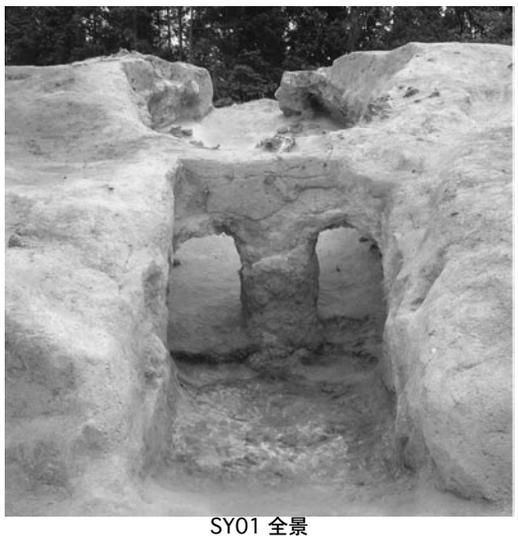
灰原：焼成不良な陶器や灰などを捨てた灰原は、窯体前庭部より谷側にかけて、大きく 2 ヶ所にわたり広がりが見られた。盗掘坑がほとんどみられず、当時の灰原が極めて良好な状態で遺存していた。概ね、SY02 の灰原は南東側（灰原 2）、SY01 の灰原は北西側（灰原 1）に対応する。南東側の灰原は窯体を構築した時に地盤を削りだした土（斑土層）が確認できる。灰層 1 層で 1 回の操業と試算すると、灰層は全体で 5 層（灰原 1 に 3 層、灰原 2 に 2 層）確認でき、最低 5 回の操業が推定できる。

出土遺物　遺物収納コンテナ（27 ﾘｯﾄﾙ）で約 450 箱にのぼる。無釉の陶器（山茶椀）である椀・皿を中心に、陶丸や古瀬戸瓶子・四耳壺などが出土している。　（永井宏幸）



凧山 C 窯跡全体図

凧山 C 窯遠景


SY01 全景

SY01 分焔柱（焼成室から）

SY01 焼成室遺物出土状況

SY01 焼成室焼台出土状況

SY01 焼成室焼台出土状況

SY02 全景

SY02 分焔柱補強後

SY02 分焔柱補強前

SY02 分焔柱

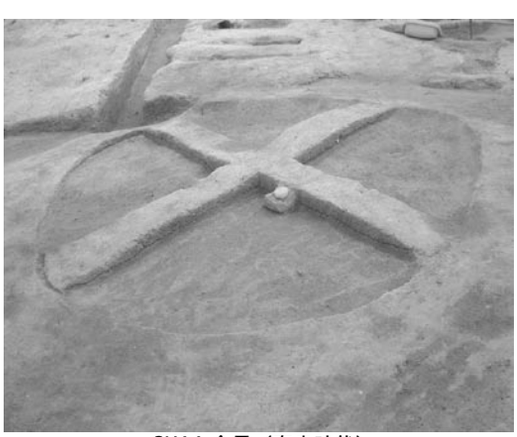
SY02 焚口付近遺物出土状況

SY02 前 SD01 遺物出土状況

灰原全景（灰原 1 東から）

SK07 遺物出土状況

SD02 遺物出土状況（工房跡？）


SK11 全景（奈良時代）

SK12 全景（縄文時代早期）